

群 教 セ	G14 - 01
	平25.251集
	小・幼小連携

相手の立場に立って、人とのかかわり方を 考えられる児童の育成

— 総合的な学習の時間に幼小の互恵的な交流活動を位置付けて —

特別研修員 吉野 玲子

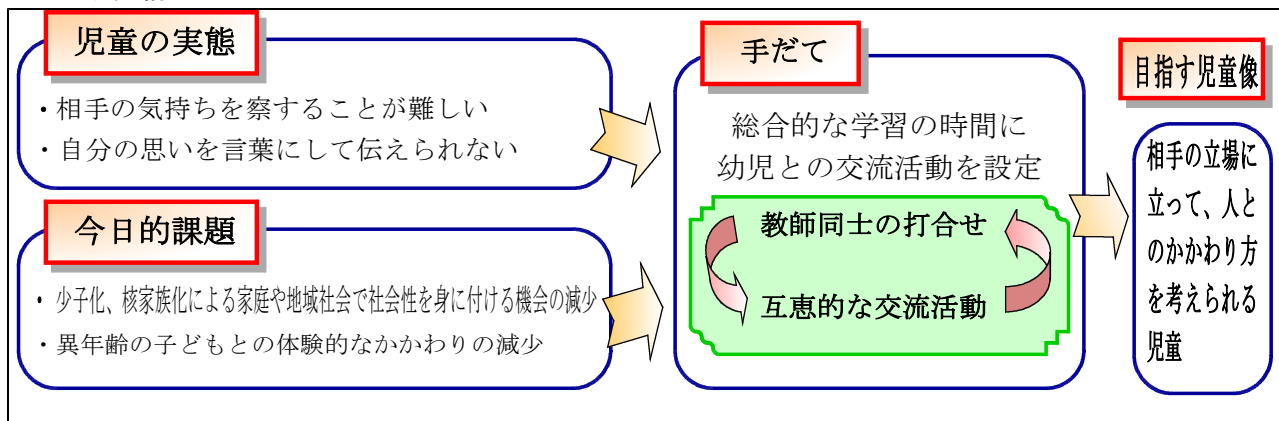
I 主題設定の理由

近年、少子化、核家族化などが進む中で、家庭や地域社会において社会性を身に付ける機会が減少している。また、テレビや電子ゲームなど、子どもが間接体験や疑似体験の中で一人遊びする傾向が増し、体験活動や異年齢の子どもとのかかわりが減少している。このような状況から、相手の気持ちを察し自分の思いを言葉にして伝えながら人とうまくかかわることが難しい子どもが増えている。

そこで本研究では、総合的な学習の時間に幼児との互恵的な交流活動を設定することとした。面倒みる人とみられる人というかかわりではなく、幼児が小さいながらも一生懸命工夫しがんばっている姿を見ることによって、相手を認め人として尊重する気持ちをもてるようになると考えた。また人とのかかわりにおいて、気持ちを察したり自分の思いを言葉にして伝えたりすることの必要性を実感することができるであろうと考えた。このようなことから幼小の互恵的な交流活動が「相手の立場に立って、人とのかかわり方を考えられる児童の育成」に有効であると考え、本主題を設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手だて

単元「年長さんと仲良くなろう」（第5学年）において、以下のように交流活動を位置付けた。

手だて「総合的な学習の時間の探究活動に幼児との交流活動を設定」（図1）

- ・ 1回目の交流活動を課題設定の過程に位置付ける。
- ・ 2回目の交流活動を整理・分析の過程に位置付ける。

1回目の交流活動では七夕飾りを一緒に作った。ペアの幼児のことを知り、かかわり方の課題を把握できるような活動を設定した。2回目の交流活動では児童が作ったおもちゃで一緒に遊んだ。ペアの幼児ともっと仲良くなるために考えたことを実践できるような活動を設定し、人とのかかわり方について考えられるような単元構成にした。

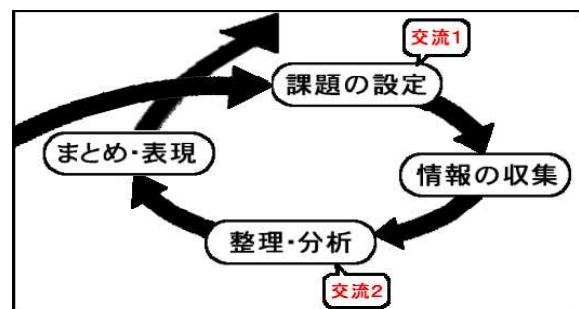


図1 交流活動の位置付け

また、交流活動を互恵的なものにするために、幼小の教師同士の打合せを設定した。

手だて「交流活動を互恵的にするための教師同士の打合せ」

互恵的な交流活動とは、幼児と児童がかかわり合いながら主体的に活動する中で、それぞれのねらいを達成できる活動のことである。交流活動を互恵的なものにするために以下のことについて打合せを行った。

- ・幼小それぞれのねらいを明確にする。
- ・一人一人の性格を考慮したペア・グループを決める。
- ・交流の状況を予想し、支援の仕方について共通理解を図る。

交流1の事前打合せでは以下のことについて確認し合った。

- ・児童のねらい「ペアの幼児について知り、かかわり方の課題をもつ」と、幼児のねらい「七夕飾りを作る活動を通して短冊に書く字を覚えてもらいながらペアの児童に親しみをもつようになる」を共通理解した。
- ・一人一人の性格を考慮して打合せ前に6人グループを作っておき、特別な配慮が必要な子どもについて考慮しながら幼小のグループ同士を合わせ、継続的に活動できるペアを決めた。
- ・七夕飾り作りで幼児が5年生に頼って自分でやろうとしないときには、児童に対して「やってあげるのではなく幼児ができるように言葉で教えてあげてね」と声を掛けるようにすることなど、状況に応じた支援の仕方を共通理解し、幼小の教師が児童と幼児双方に支援ができるようにした。

交流2の事前打合せでは以下のことについて確認し合った。

- ・児童のねらい「ペアの幼児とより仲良くなるために考えたことを実践し、人とのかかわり方について考えられるようにする」と、幼児のねらい「ペアの児童と一緒に遊ぶことにより、小学生に対する憧れや親しみの気持ちをもつようになる」を共通理解した。
- ・1回目の交流と同じペアで遊ぶことを確認した。
- ・うまくかかわれているときにはかかわりのよさをほめ、うまくかかわれていないときには誉めたり応援したりする言葉やタイミングを児童にアドバイスすることを共通理解した。
- ・危険がないようなおもちゃの工夫や場の設定を行い、支援の仕方について共通理解を図った。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 幼稚園との2回の交流活動を総合的な学習の時間に位置付け、児童自らが課題をもち幼児とのかかわり方について考えることで、相手の気持ちを察して自分から声をかけることの大切さや、人として尊重する気持ちでかかわることの大切さに気付くことができた。
- 教師同士の打合せを行うことによって幼児・児童理解が深まり、幼小の教師が幼児と児童双方に適切な支援を行うことができた。
- 教師同士の打合せの中で一人一人の性格を考慮したグループ・ペア決めを行ったので、幼児への接し方に慣れていない児童も周りを見ながら声の掛け方を考え、かかわることができた。

2 課題

- 互恵的な幼小連携を続けるためには、年間指導計画に位置付け、計画的な実践を行うことが大切である。

3 互恵的な交流活動の発展に向けて

- 児童は来年度、最上級生という立場で1年生に対して自分にできることをしたいという意欲をもっている。入学式や4月当初の6年生と1年生のかかわりを指導計画に入れ、どんな相手に対しても人として尊重し、相手の立場に立って気持ちを察し自分の思いを言葉で表すことが人とうまくかかわるのに必要なことだという気付きをさらに深められるようにしていきたい。

IV 実践及び改善の実例

実践 1

1 単元名 「年長さんと仲良くなろう」(第5学年・1学期)

2 本単元及び本時について (本時は3・4/10)

本単元では、児童が相手の立場に立って気を配りながら活動することを通して、人とのかかわり方を考えることができるように、幼児との互恵的な交流活動を2回設定した。1回目の交流活動は「課題の設定」の過程に位置付けた。七夕飾りを一緒に作る活動を通してペアの幼児の発達段階や性格、好みなどを知り、さらに楽しく遊べるためにはどうかかわったらよいかを考え、自分の課題をもてるようにした。「情報収集」の過程においては1回目の交流活動で困ったことをグループで共有しKJ法を用いて解決への見通しをもてるようにした。2回目の交流活動は「整理・分析」の過程に位置付けた。ペアの幼児が喜びそうなおもちゃを作って一緒に遊ぶ活動を通して自分の考えたかかわり方を実践し、人とのかかわり方について考えることができるようにした。「まとめ・表現」の過程においては2回の交流活動の経験を生かし、来年度最上級生と1年生という立場で自分ができることを考えた。

本時は1回目の交流活動にあたる。ペアの幼児と一緒に七夕飾りを作ったり自由遊びをしたりする活動を通して、幼児の興味関心や特性に気づき、かかわり方についての自分の課題をもつことがねらいである。研究主題に迫るため次のように手だてを具現化した。

3 幼小の交流活動の実例

(1) 幼小の教師同士の打合せ

交流活動を互恵的なものにするために、幼小の教師同士が打合せを行った。それぞれのねらいを明確にし、交流の様子を予想してどう支援するか、どこまで見守るか支援の仕方について共通理解を図った。また性格を考慮し継続的に交流できるペアやグループを決めた。

事前打合せの様子
〈一人一人の性格を考慮したペア・グループ決めの様子〉
小T：考慮してグループを分けてきていただきありがとうございました。小学生のグループと合わせてペアを決めたいのですが、特に配慮が必要な子はいますか。
幼T：◎S1ちゃんは緘黙でまったく言葉を発しません。気に入らないことがあるとぶったり蹴ったりします。その時は私たちがやめるように言いますが、ペアの子はあまり気にしない子の方がよいと思います。
小T：面倒みがよくて、精神的にも強い◎S1ちゃんとペアにしましょう。
〈支援の仕方について共通理解を図る様子〉
小T：うまくかかわれていないときには、言葉の掛け方を児童に具体的にアドバイスしましょう。それでも会話が続かないようなら互いの興味を聞き共通の話題を提供しましょう。児童には、幼児の興味を聞いて共通の話題を見付けるように事前に指導しておきます。

(2) 交流活動

交流活動の始まりの会において、振り付けをしながら歌い楽しい雰囲気を作ったことで、はじめは緊張していた児童や幼児も笑顔が見られようになった。ペアの幼児の隣に移動し、初対面のあいさつをした際には、事前に話し掛ける言葉を考えさせておいたので互いに良い印象をもって活動に入ることができた。

一緒に七夕飾りを作る活動の様子(うまくかかわれているペア)
幼T：お兄さんお姉さんと一緒に、短冊にお願い事を書きます。分からない字は教わってくださいね。お願い事が書けたら星形をなぞって切ります。短冊に星と紙テープを付けてできあがりです。(図2)
小T：5年生も隣で同じものを作ります。ペアの子が自分でできるように一つずつ見守りながら、やり方を教えてください。

幼T：早くできた人はくす玉の花作りをしてください。お花の作り方が分からない人はお兄さんお姉さんに聞いてください。

小T：ホチキス止めと両面テープ付けは5年生がやってください。

㊦S2：星形をなぞるのが難しいね。
ぼくが持ってるからなぞってみて。

㊦S2：できた。ありがとう。

㊦S2：じょうず。㊦S2くんは何して遊ぶのが好きなの。

㊦S2：サッカー。

㊦S2：ぼくもサッカー大好き。この後サッカーで遊ぼうよ。

㊦S2：やったー。



図2 短冊に願い事を書く様子

このように、ペアの幼児と一緒に七夕飾りを作りながら、好きな遊びやテレビの話などをし、好みや特性を知ろうとしていた。うまくかかわれている時には教師は笑顔で見守るようにした。

一緒に七夕飾りを作る活動の様子（うまくかかわれていないペア）

〈幼児が短冊に書くお願い事を決められず、会話をしていないペアへの支援の様子〉

小T：「何になりたいの」とか「好きなもの何」とか聞いてみたら。

㊦S1：何になりたいの？

㊦S1：・・・

㊦S1：好きなもの何？

㊦S1：・・・

幼T：㊦S1ちゃんはディズニーランドが好きなんだよ。この前も行ったんだよね。

㊦S1：・・・

㊦S1：いいなあ。じゃあ「ディズニーランドに行きたい」ってお願いすれば。

㊦S1：（言葉は発しなかったが、鉛筆を持った。）

㊦S1：こうやって書くんだよ。

㊦S1：（言葉は発しなかったが、見ながら「ディズニーランドに行きたい」と書いた。）

㊦S1：じょうずに書けたね。

その後、園庭でドッチボールや泥だんご作り、砂場遊びなどでペアの幼児と一緒に自由に遊んだ。最後に終わりの会で楽しかったことを発表し合い、次の交流活動を楽しみにできるようにした。

4 考察

- 会話の中でペアの幼児との共通点を見付けられた㊦S2は、ワークシートに「㊦S2もサッカーが好きだと分かって急に話がはずむようになった。次の交流活動の時には一緒にサッカーをやっていろいろな技を教えてあげたい」と書いている。もっと仲良くなるためにはサッカーでどのようにかかわっていくと良いかという課題をもつことができた。共通の話題を探ることが人とうまくかかわることにつながるということに気付くことができた。
- うまくかかわれなかった㊦S1はワークシートに「いろいろな話しかけても答えてくれなかったが、自由遊びの時にブランコを押してあげたら笑顔になったのでよかった。次の交流活動の時にはミッキーの絵を描いてプレゼントしたい」と書いている。いろいろな性格の幼児がいることや、コミュニケーションをとる方法は言葉だけでないことに気付くことができた。次の交流活動に向けて言葉以外でのかかわり方を考えようという課題をもつことができた。
- 事前の打合せで考慮してペアを決めたりねらいや支援の仕方について共通理解を図ったりしたことにより、幼小の教師が幼児と児童双方に適切な支援ができた。その結果、幼児はペアの児童に親しみをもち「また来てね」と言って手を振りながら見送る姿が見られた。幼児への接し方に慣れていない児童も周りを見ながら声を掛けることができ、全員がかかわり方の課題をもつことができた。

実践2

1 単元名 「年長さんと仲良くなろう」(第5学年・2学期)

2 本時について(本時は8・9/10)

本時は「年長さんと仲良くなろう」の2回目の交流活動である。単元の中の「整理・分析」の過程に位置付けた。実践1を踏まえ、自分の課題に沿ったかかわり方を実践することにより、人とのかかわり方について考えることを目指している。そこで事前にペアの幼児が喜びそうで、一緒に遊ぶことができ少し工夫するとうまくいくようなおもちゃを作った。そして交流活動ではそのおもちゃを持って行き、ペアの幼児と一緒に遊びながら自分の考えたかかわり方を実践できるようにした。このような活動を通して、相手の立場に立って人とのかかわり方について考えられるように次のように手だてを具現化した。

3 幼小の交流活動の実際

(1) 幼小の教師同士の打合せ

交流活動を互惠的なものにするために、事前に幼小の教師同士の打合せを行い、それぞれのねらいを明確にし、支援の仕方について共通理解を図った。

事前打合せの様子
〈危険がないようなおもちゃの工夫や場の設定について〉 小T：児童が「チャンバラ」や「とんとんずもう」などのおもちゃを作る計画を立てていますが種類や数は適切でしょうか。 幼T：「チャンバラ」ではなく「おにたいじ」という名前にしてはどうでしょうか。剣を使うのは鬼に対してだけという約束にしましょう。 小T：そうですね。剣はとがっていない物を作らせて危なくないようにします。
〈支援の仕方について共通理解を図る様子〉 小T：うまくかかわれている時には笑顔で見守るようにしましょう。ペアで会話をしていないときには、誉めたり応援したりする言葉やタイミングを児童にアドバイスしてください。 幼T：話が続きないうなら、互いの興味を聞き共通の話題を提供できるようにしましょう。 小T：㊦S3はなかなか声を掛けられないので心配ですが、ポケモンのことは生き生き話します。 幼T：ペアの㊦S3もポケモンが好きです。困っているようならポケモンの話題で話し掛けてみましょう。

(2) 交流活動

交流活動の始まりの会において、手をつないで歌を歌ったり、ペアのワッペンを付けたりする活動を設定したことによって、親しみをもって遊びに入ることができた。

始まりの会での活動の様子	※司会は5年児童
幼T：お兄ちゃんお姉ちゃんたちまた来てくれたね。お顔覚えてるかな？ おもしろそうなおもちゃがいっぱいだね。 小T：ペアの子の名前を呼んで迎えに行き、隣同士で座ってください。 司会：これから「なかよしの会」を始めます。楽しく一緒に遊びましょう。 ペアの子と手をつないでみんなで元気に「さんぽ」を歌いましょう。 (言葉は交わさなかったが手をつなぐ時、目を合わせて自然に笑顔になった。前奏が始まると、つないだ手をふって拍をとり一体感を感じられた。) 司会：ありがとうございました。5年生はペアの子にワッペンを付けてあげてください。 ㊦S3：よろしくね。前ポケモンが好きって言ってたよね。だからポケモンの絵を描いたよ。 ㊦S3：すごい。ありがとう。お兄ちゃんのも同じだ。 小T：かわいいワッペンだね。このお兄ちゃんもポケモンが好きなんだよ。	

このように、ワッペンを付けたり手をつないで歌ったりすることで、緊張がほぐれ笑顔が見ら

れた。

おもちゃで遊ぶ場面では、次のような会話があった。

一緒におもちゃで遊ぶ活動の様子（うまくかかわれているペア）

「もぐらたたき」をする場面で（図3）

㊦S4：これお姉ちゃんが作ったんだよ。

㊦S4：すごい。どうやって遊ぶの？

㊦S4：こっちからもぐらを出すから
ピコピコハンマーでたたいてね。

㊦S4：今度はそっちがやってみたい。
お姉ちゃんがたたいて。

「さかなつり」でなかなかつれない場面で

㊦S5：むずかしいね。ちょっと竿かして。糸を短くしてあげる。

㊦S5：ありがとう。つれた。

※交流がうまくいっていたので教師は笑顔で見守ることにした。



図3 「もぐらたたき」で遊ぶ様子

一緒におもちゃで遊ぶ活動の様子（うまくかかわれていないペア）

㊦S6：先生、ぼく㊦S6ちゃんに嫌われちゃったみたい。
手をつないでくれない。

小T：㊦S7くんのペアと4人で遊んでみたら。
このお兄ちゃんはサッカーがすごく上手なんだよ。

㊦S6ちゃんは好き？

サッカーストライクでお手本見せてもらおうか。

㊦S6：うん。

（その後は4人で遊んでいたが、幼児2人が主に話し児童はうまくかかわれていなかった。）

幼T：㊦S6ちゃんは妹が生まれて、ちょっと気持ちが落ち着かなくなってるんだ。㊦S6くんの
せいじゃないから気にしないでね。

㊦S6：はい。㊦S6ちゃん妹できていいなあ。名前はなんていうの？

その後、終わりの会で感想の交換をした。幼児の方からは「迷路が楽しかったです」といったおもちゃの感想が多く出た。児童からは「喜んでもらえて嬉しかったです」「一緒に遊べて楽しかったです」といったかかわりについての感想が多く出された。

4 考察

- 話し掛けるのが苦手な㊦S3はワークシートに「㊦S3くんがポケモンが好きで良かった。ワッペンを喜んでもらえて嬉しかった。ポケモン以外のこともいろいろ話せた。これからは友達にもいろいろ話し掛けてみたい」と書いている。ポケモンのワッペンを喜んでもらったことで、かかわり方に自信をもつことができ、友達とのかかわり方に広げて考えることができた。
- うまくかかわれなかった㊦S6はワークシートに「人と仲良くなるには笑顔で話し掛けることが大切だと分かった。相手がどう思っているのか考えて声を掛けるようにすると友達とのけんかもなくなると思う」と書いている。幼児との交流で学んだことを、友達同士のかかわり方に広げて考えることができた。
- 事前の打合せでねらいや支援の仕方について共通理解したことにより、幼小の教師が幼児と児童双方に適切な支援を行うことができた。幼児は小学生に憧れや親しみの気持ちを持ち「1年生になったら毎日遊ぼうね」と話す姿が見られた。児童はペアの幼児とのかかわりから人とのかかわり方について考えることができた。